

4. 公共交通における取組

道路は、県民生活に密着したインフラとして、通勤・通学、買い物、散歩など、生活における多様な目的の移動の用に供する施設です。

また、高齢社会の到来、地球環境問題への対応、健康志向の高まりなどを受け、自家用車に過度に依存しない交通体系を構築することが重要であることから、自動車交通の円滑化のみならず、公共交通における以下の取組を進めています。

(1) 奈良県公共交通基本計画・奈良県地域公共交通網形成計画に基づく取組の推進

奈良県 公共交通基本計画

検索

公共交通に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための基本的な方針等を定める「奈良県公共交通基本計画」及び地域全体を見渡した総合的な公共交通ネットワークの形成を図ることを目的とした「奈良県地域公共交通網形成計画」を平成28年3月に策定しました。

現在、両計画に基づく施策や取組を実施し、公共交通により円滑な移動を享受できる持続可能な地域社会の実現を目指しています。

奈良県公共交通基本計画



本計画では、公共交通施策を実施するにあたっての基本的な方針や、奈良県が総合的かつ計画的に講ずべき施策について定めています。

■計画のポイント

1. 公共交通を『社会インフラ』の一つと位置づけ
2. 移動ニーズに応じた交通サービスの実現
3. 関係者の連携・協働による取組～『奈良モデル』～
4. バリエーション豊かな交通サービスの確保
5. まちづくりや医療、観光等に係る施策との連携
6. データに基づく実証的アプローチ

奈良県地域公共交通網形成計画



本計画では、地域が目指すべき将来像とともに、その中で公共交通が果たすべき役割を明確にした上で、公共交通の活性化や再生に向けた取組の方向性を定めています。計画区域内の住民ニーズを踏まえながら、地域特性に応じた多様な交通サービスの組み合わせや移動環境の向上、公共交通の利用促進など具体的な取組を記載しています。

■計画のポイント

1. 県、市町村、交通事業者、県民等による『連携の証』
2. 地域ごとの課題やまちづくりの動向等を示した『公共交通とまちづくりのデッサン』の作成
3. 奈良県地域交通改善協議会の枠組みを活用した 実行性の確保

TOPIC トピック

貨客混載

路線バス・コミュニティバスで人と一緒に貨物を輸送する「貨客混載」を、平成29年10月から平成30年3月にかけて、天川地域及び奥宇陀地域の2地域で社会実験として実施しました。

この取組により、過疎地域等におけるバスの生産性向上と物流の効率化による地域住民の生活サービス向上が期待されます。



▲取組のイメージ

(産経新聞社提供)



▲路線バスから貨物を引き渡し

(2) 奈良県地域交通改善協議会による交通サービスの検討

地域交通に係る様々な課題に対応するため、県、市町村、交通事業者等からなる「奈良県地域交通改善協議会」を開催し、様々な移動ニーズに応じた公共交通のあり方について検討を進めています。

また、関係者が連携・協働して、PDCAサイクルによる交通サービスの維持・確保・活性化に向けた取組を継続的に行うとともに、まちづくりと一体となった公共交通のあり方や利用促進策についても検討を進めています。

協議会の取組方針

1. 路線の必要性・補助の妥当性を指標に基づき客観的に診断
2. PDCAサイクルによる定期的な検証
3. 路線単位で協議



▲第10回協議会 (H29.7.21)



▲第14回路線別検討会議 (東部Aグループ)

(3) 路線バス、コミュニティバス等への支援

地域公共交通の持続的な運行を確保するため、市町村を跨ぐ基幹的なバス路線に対して支援しています。また、市町村等が実施するコミュニティバス等による効率的な運行に向けた取組に対して支援しています。



▲奈良交通(株)が運行する路線バス
八木新宮線
八木駅(橿原市)～新宮駅(和歌山県新宮市)



▲市町村が連携して運行するコミュニティバス
R169ゆうゆうバス
福神駅(大淀町)～下桑原(下北山村)

TOPIC トピック

サイクルバス

サイクルトレインは15ページで掲載しています。

自転車をそのままバスの車内に積載して移動できる「サイクルバス」の運行を、平成29年9月から11月にかけて奈良交通飛鳥線(橿原神宮前駅東口～石舞台～飛鳥駅)において社会実験として実施しました。

この取組により、公共交通の利用を促進するとともに、自転車利用ネットワークが拡大され、より広域的な観光周遊の促進による観光振興や住民の行動範囲の広がりによる地域活性化が期待されます。



▲路線バスに自転車を積み込み